

算命学中庸

【初年】 3 4 回目

3 4 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【人体図のだし方】

【初年】 3 4 回目 【人体図のだし方】 01

⇒ 人体図のだし方

算命学中庸の **参考資料** を **03～07 頁** に掲載してあります。

03 頁 【十二支と季節の図】 は、十二支を春夏秋冬の 4 季節に分けられます。という意味です。

04 頁 **十二支盤〔十二支の陰陽と季節〕** は、十二支を春夏秋冬の4季節に分けられます。そして、十二支に陰陽を付けることができます。という意味です。

05 頁 **【十干】 【十二支】** は、十干をものにたとえると、「甲木」は樹木・果実です。という意味です。

十二支盤の十二支に（冬至）（春分）（夏至）（秋分）を配置しました。そして、四方向と季節を配置しました。

北の北方水地は水性の十二支、東の東方木地は木性の十二支、南の南方火地は火性の十二支、西の西方金地は金性の十二支、という意味です。

06 頁 11 回目の授業『極微流入・発揮論』です。

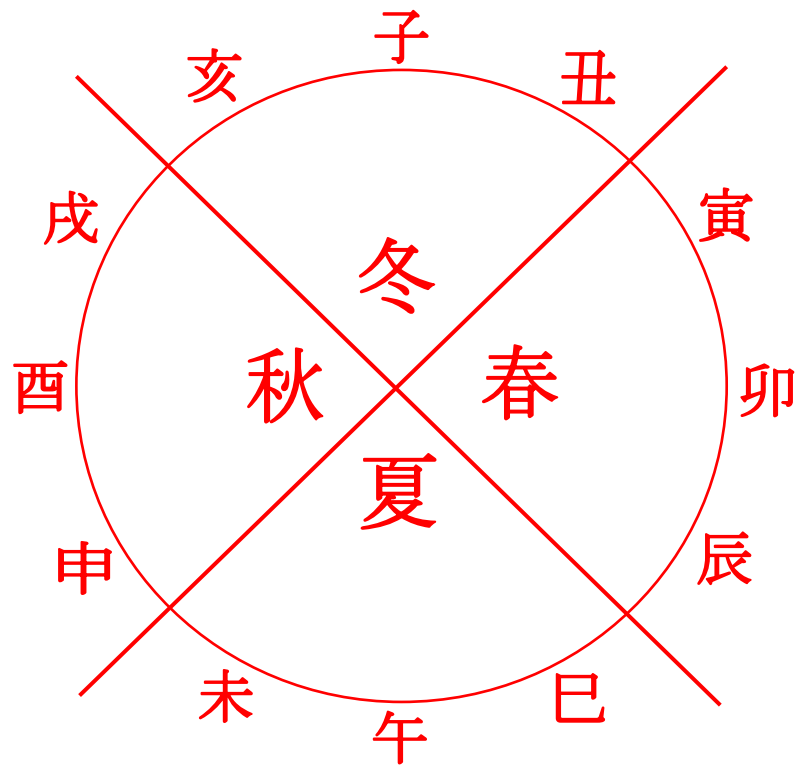
宇宙空間を流動する気〔天気〕が、地球に影響を及ぼし〔地気〕を生じ、天気と地気は人間が誕生すると流入して〔人間の気〕となり、それが宿命で、宿命は陰占と陽占であらわされます。

07 頁 日干から見て、『相生』『相剋』『比和』の関係によって出てくる十大主星とその陰陽です。

参考資料

算命学中庸

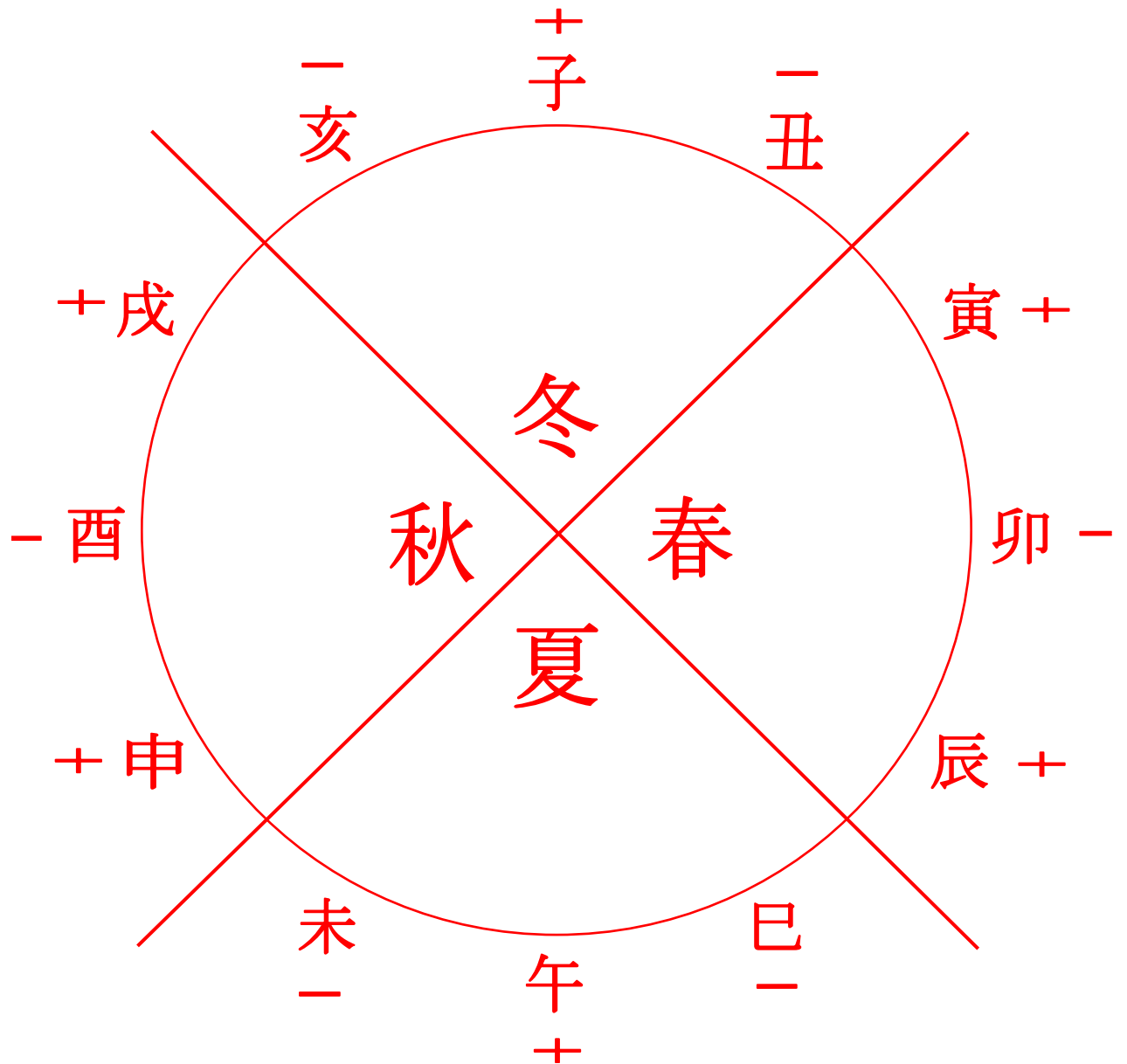
【 十二支と季節の図 】



参考資料

算命学中庸

十二支盤〔十二支の陰陽と季節〕



参考資料 算命学中庸

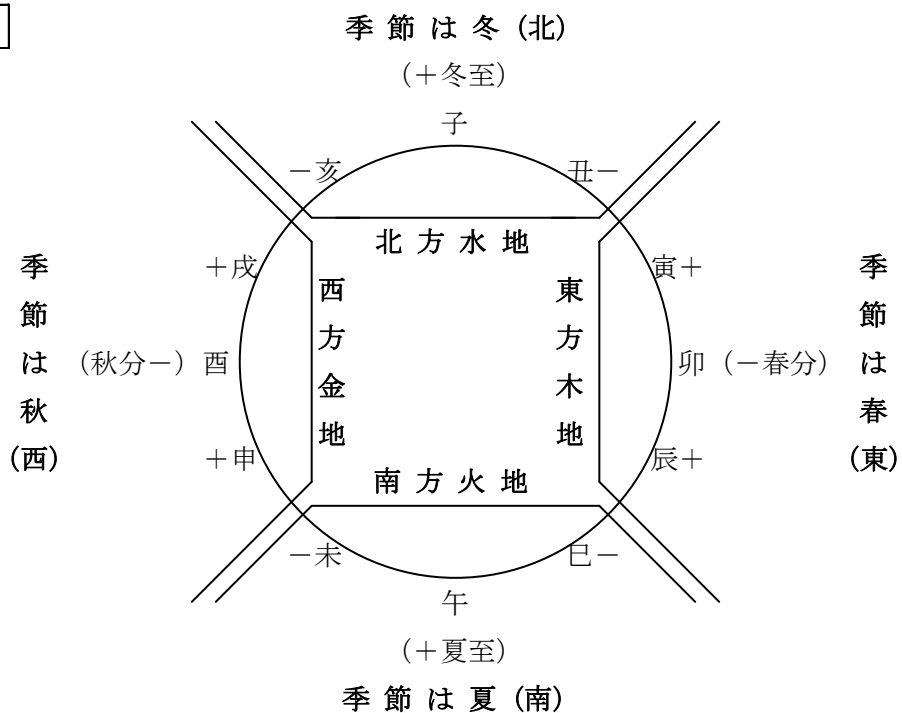
参考資料【十干】 【十二支】

算命中庸学

十干

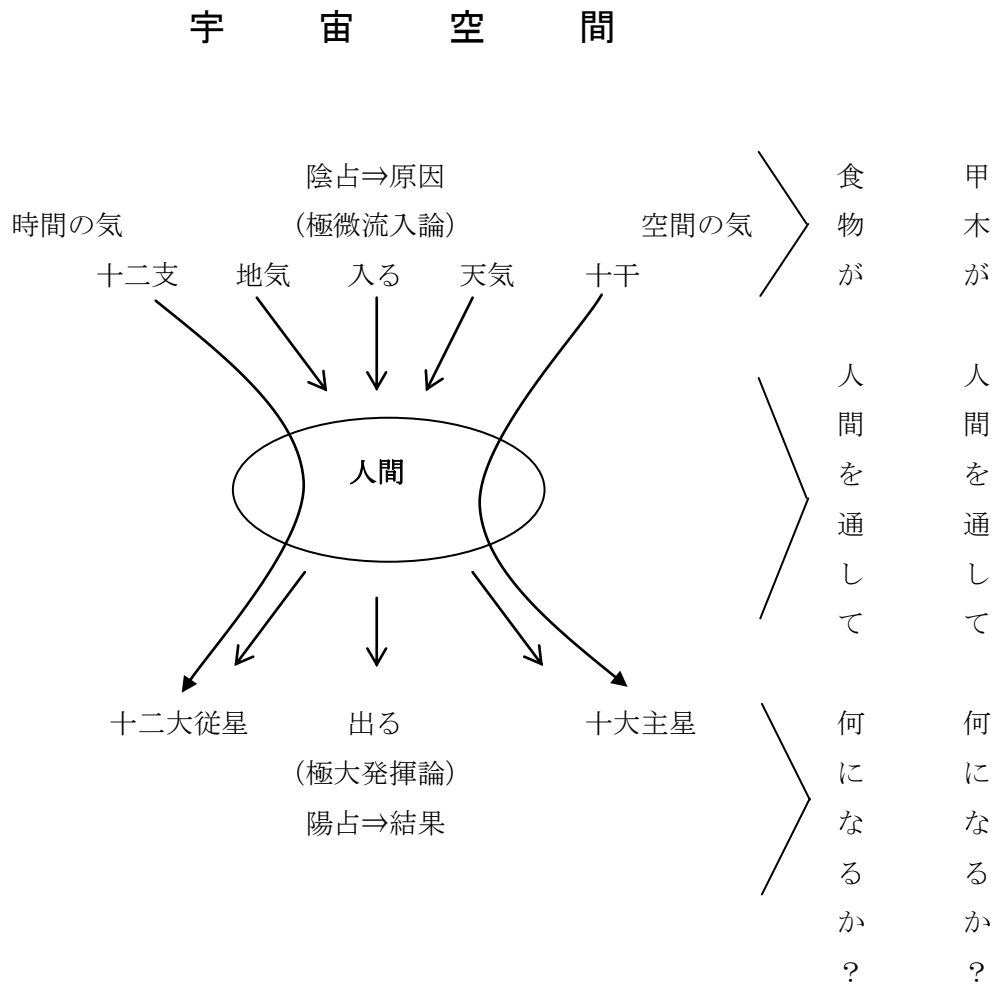
干	陰陽／五行	自然界における役割	(気の質)	性別
甲	陽／木性	樹木・果実	(陽の気は大きい)	男性
乙	陰／木性	草花・穀物	(陰の気は小さい)	女性
丙	陽／火性	太陽・陽光	(陽の気は大きい)	男性
丁	陰／火性	月・火炎・灯火	(陰の気は小さい)	女性
戊	陽／土性	山・連山	(陽の気は大きい)	男性
己	陰／土性	平地・田畑	(陰の気は小さい)	女性
庚	陽／金性	鉱物・斧	(陽の気は大きい)	男性
辛	陰／金性	石・宝石	(陰の気は小さい)	女性
壬	陽／水性	海・湖・大河	(陽の気は大きい)	男性
癸	陰／水性	川・雨	(陰の気は小さい)	女性

十二支



参考資料 算命学中庸

「陰占」は原因であり、「陽占」は結果です。



人間を「宇宙の気」が取り巻いていると考えています

☞ 発揮 (特性をあらわしだすこと)

参考資料 算命学中庸

『十大主星』相生・相剋・比和との関係

【相生・相剋・比和】

日干が生じる	鳳閣星	調舒星
日干を生じる（日干が生じられる）.....	龍高星	玉堂星
日干が剋す.....	禄存星	司禄星
日干を剋す（日干が剋される）.....	車騎星	牽牛星
日干が比和する	貫索星	石門星

【星の陰陽】 星には「陰陽」があります。

日干	他の干	十大主星
+	+	+
+	-	-
-	+	-
-	-	+

+ 反発 +

- 反発 -

日干が陽で、他の干が陽なら、十大主星は陽星になります。

⇒ ここからは『人体図のだし方』です。

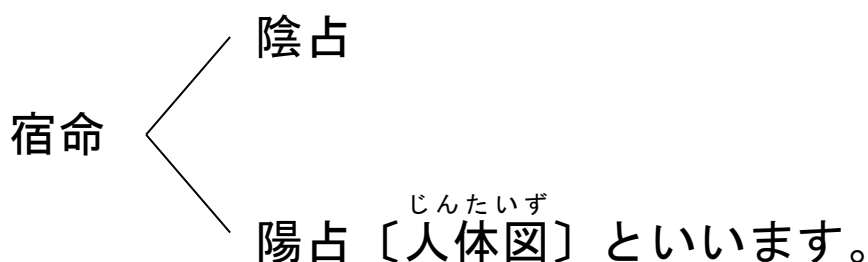
そろそろ——実践的な占いの観方に入っていきます。

〔十大主星〕の意味合いをつかっていくようになります。

実際にその人物が人体図にどの星と、どの星と、どの星をもっているのか、その星の組み合わせとか、あるいは誰でも十大主星は人体図に五つ出てきますが、その五星を総合的に考えたときに、その人物の宿命はどのような特徴をもっているのか……そのような勉強に入ります。

⇒ 最初に人体図をださないといけないのですが、算命学には『陰占の世界』と『陽占の世界』があります。

宿命にも『陰占』と『陽占』があるわけです。



陰占の宿命は、普通に陰占（いんせん）とといいます。

陰占といえば、陰占の宿命のことです。

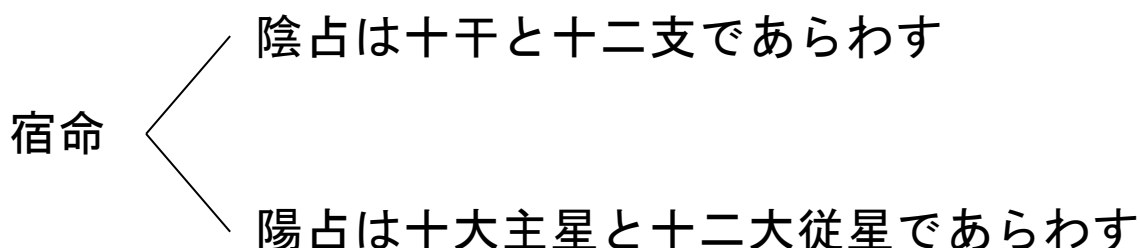
陽占（ようせん）の宿命は、人体図（じんたいず）という場合が多いのです。

陰占の宿命は「十干」と（十二支）で表わされています。

それを宿命（しゅくめい）と^{こしょう}呼称しています。

生年月日を「^{ねんかんし}年干支」「^{げっかんし}月干支」「^{にっかんし}日干支」という三つの干支であらわしたのが宿命です。

陽占〔人体図〕は〔^{じゅうだいしゅせい}十大主星〕と^{じゅうにだいじゅうせい}十二大従星という星であらわします。



十大主星の基本的な意味合いは、一通りやりましたが、十二大従星はまだやっていませんので、これから勉強していくようになります。

ここでは、人体図のだし方をまなんでいくのですが、人体図を柵目（ますめ）で書く場合と、人間の姿で書く場合との二つあります。

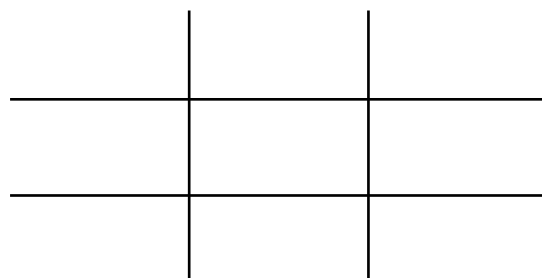
どちらでも意味はおなじです。

どちらで表してもかまわないわけです。

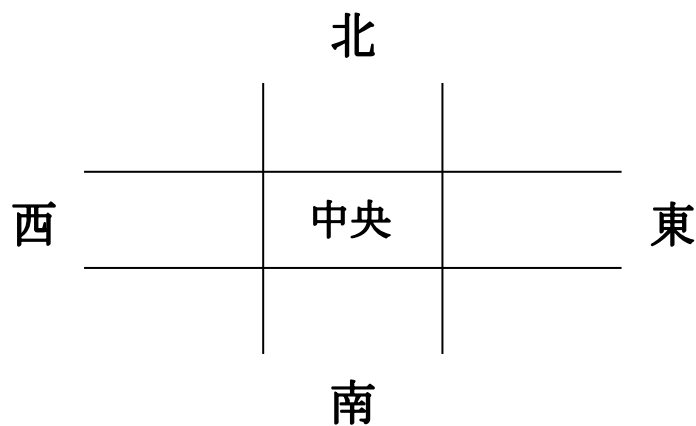
ただ、いちいち人間のからだの図を描くよりも、四角の格子型の柵目で書くほうが簡単ですから、通常は柵目で書くほうが多いです。

それゆえに、授業でも柵目で書きます。

☞ 人体図を柵目で書くと、下記のようにになります。



人体図には、東西南北と中央の「五方向」があります。



上が北で、真ん中は中央、下が南、向かって右は東で、向かって左は西です。

地図の東西南北とおなじですけど、中央があります。

算命学は“人間は自然物”であると考えていますから、人間の宿命も、自然界に当てはめて位置づけています。

十大主星のなかで、五星が人体図の場所に載ります。

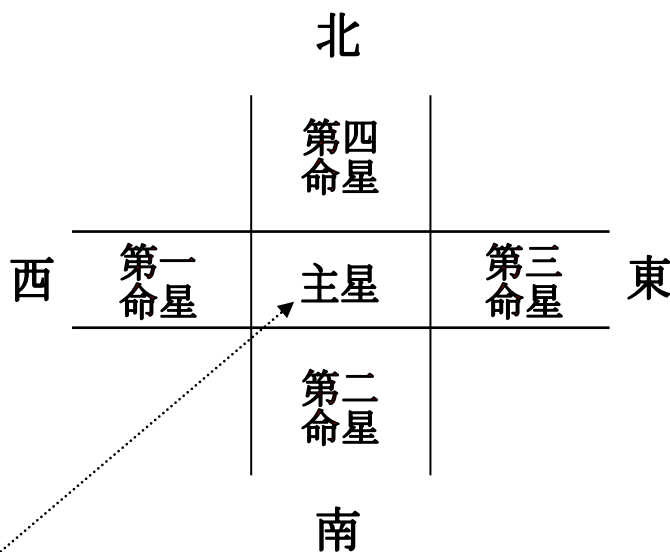
五星が載る各場所には、名前がついています。

人体図の中央の場所に載る星を〔主星^{しゅせい}〕といいます。



十大主星については勉強しました。

〔たとえば〕鳳閣星が主星にあると、鳳閣星の意味合いが特に強く出ますよ、主星がその人物の本質を表す星ですよ……というふうに、少しだけ説明しましたが、中央の場所に載る星を「主星^のしゅせい」といいます。その主星を囲んでいる4つの場所にも、それぞれ名称が付いています。



中央にでてくる星は〔主星 しゅせい〕

西にでてくる星は〔第一命星 だいいちめいせい〕

南にでてくる星は〔第二命星 だいにめいせい〕

東にでてくる星は〔第三命星 だいさんめいせい〕

北にでてくる星は〔第四命星 だいよんめいせい〕

このように名称ついています。

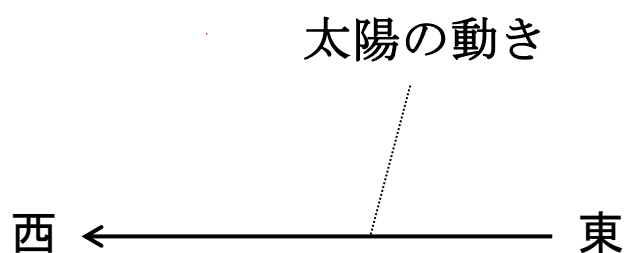
これら五つの場所に、どの星がでてくるのかは、人それぞれで違います。

西の第一命星の場所に〔貫索星〕が載^のる人、あるいは〔禄存星〕が載る人もいます。

十大主星は10通りの星があるわけですから、そのなか星が、五つの場所に載ります。

☞ 人体図には自然界の摂理に則^{そく}して、名前が付けられているのです。ここに算命学の考え方が含まれています。

太陽は東から昇って西に沈みますよね。



矢印の方向は太陽の動きです。

太陽は毎日、朝、東から昇って西に沈みます。

また、東から昇っては西に沈みます。

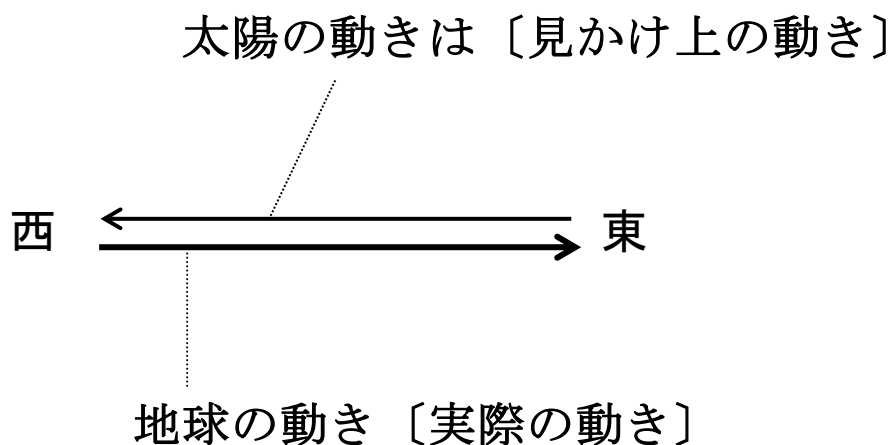
太陽は東から、西へうごいて行きます。

しかし、実際には、太陽は動いていないわけです。

太陽が東から昇って、西に沈むように見えるのは——、地球が西から東へ向かって自転しているために、太陽が東から西に動いているように見えるだけです。

太陽は実際には東から西に向かって動いていません。

実際に動いているのは地球のほうです。



地球が西から、東へ向かって自転しているわけです。

地球が西から、東へ向かって動いていますから、まるで太陽が東から西へ移動したように見えるだけなのです。

そうしますと——、

太陽の動き〔東から西へ〕は、実際の動きではなくて、

〔見かけ上の動き〕に過ぎないわけです。

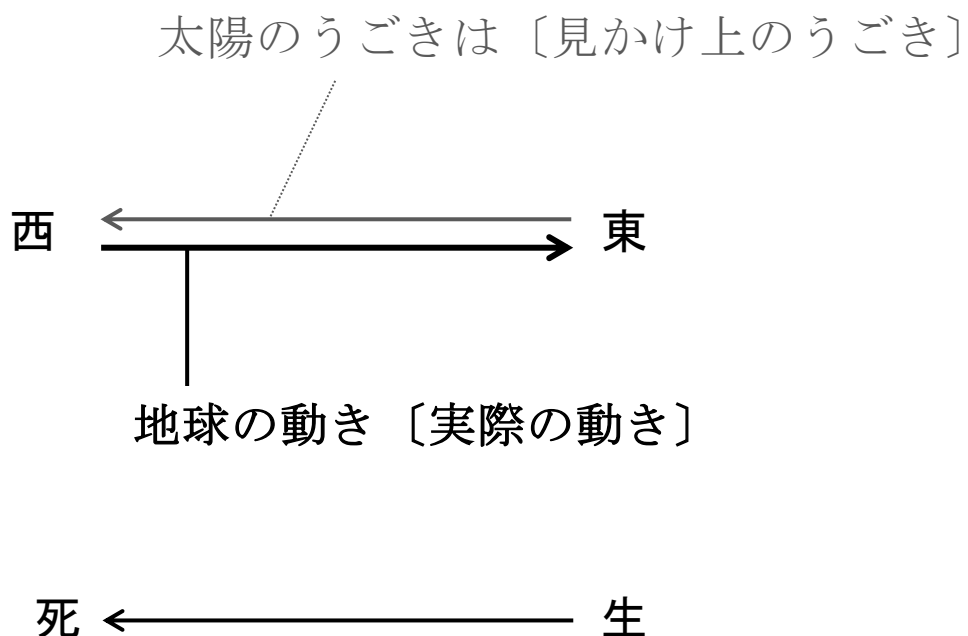
地球の動きは〔実際の動き〕です。

☞ 地球は秒速 30 km の速度で公転軌道のうえを動いています。

実際に地球は、西から東へ向かって、動いていますが太陽は動いていません。

太陽が東から西へと動いているように見えるだけです。

算命学はこの考え方を人生に当て嵌^はめて、人間は自然物なので、太陽や地球の動きに支配されている……自然物だから自然の法則に支配されていると考えているのです。



西方浄土という言葉がありますが、人間は生まれてから、だんだん成長して、大人になって死んでいきます。

少し付け加えますと：

人間が生まれたときは、まだ赤ん坊なので小さくて弱い
です。

三歳、四歳、五歳と、歳としを重ねる毎ごとにだんだん成長して、
心身ともに大人になって、たくましくなり、強くなって
行きます。

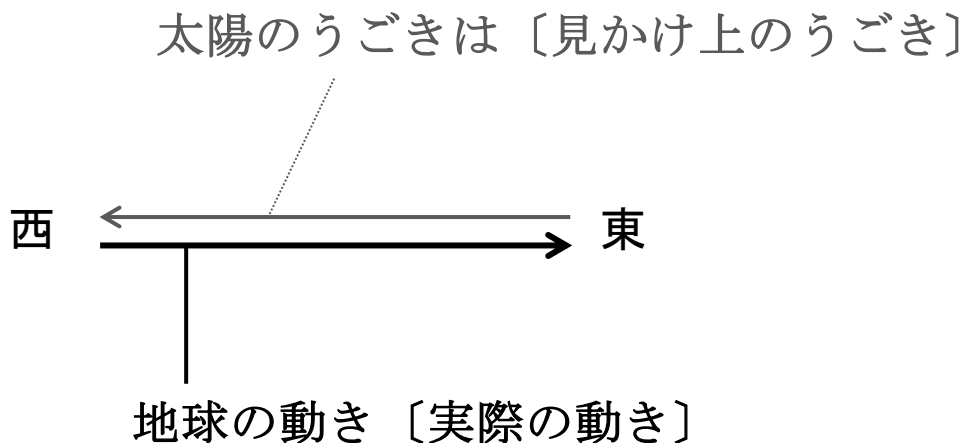
最初は弱くて、段々、段々と強くなって、大人としての
人生の頂点を過ぎると、今度は逆に、弱くなって晩年期
の最後には死んで行きます。

太陽の輝きはそれとおなじだと考えたのです。

太陽も朝日が東から昇ったときは、まだそれほど強烈な
陽射しを発していません。暑さもそれほどでもないの
ですが、だんだんお昼の 12 時ちかくなって来ると、陽射し
はどんどん強くなって、温度も上がって来ます。

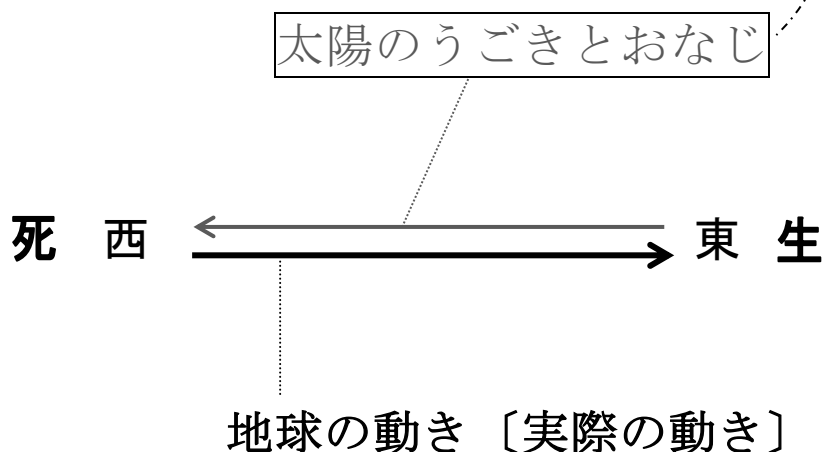
そしてまた昼が過ぎて夕方になると、だんだんと陽光が
傾いて、少しずつ弱くなって西へ沈みます。

このような太陽の姿は、まるで人間の一生とおなじでは
ないか……という考え方をしたのです。



……太陽が東から、昇って西へ沈んで行くという姿は、
そのように見えるだけであって、太陽は動いていなくて、
実際に動いているのは地球だということでした。

だとするならば……**人間の実際の死**は、太陽の姿とおなじだと、
算命学は考えているのです。



人間の生死は太陽の姿とおなじ

死 ← 生

人間が生まれてきて、赤ん坊、幼稚園、小学生と、だんだん成長して大人になってきて、20代・30代・40代と年齢を重ねて、晩年になると、今度は少しずつ衰えて、亡くなって行きます。ふつうはそう見えます。

そう見えるのは……そう見えるだけであって、実際には太陽とおなじで、自分自身は“うごいていない”のではないか——死のほうに、自分に向かって、近づいて来ているのではないかという考え方です。

自分はこれから先の将来、どんどん未来に向かって人生を渡っていくように見えるのは、そのように見えるだけであって、人間は未来に向かって進んではいない。

実際には、未来のほうに、自分に向かって近づいて来ているのではないか——こんなふうに考えています。

〔たとえば〕来年は、この仕事を始めようという目標があったら、「来年に向かって、頑張っていこう」とか、「来年に向かって進んで行こう」とか、そのような人生を送るかも知れないけれど——でもそれは、そのように

見えるだけであって、自分が来年に向かって行くのではないのです。

来年という未来のほうが、自分に向かって、近づいて来ているだけなのではないか……と考えています。

どちらでもおなじかも知れませんが、そういう考え方の^{のつと}則って、人体図の西に位置する星を、第一命星と名付けています。

実際の姿とおなじように、未来のほうが、近づいて来ているという位置づけで、西から東へ、第一・第二・第三・第四という名前が付けられているのです。

太陽が東から昇って、南を通過して、西へと沈むように見えるのは、そう見えるだけなのです。

実際には、地球が西から南中を通過して、東へと円軌道を通過して回転しているわけです。

西を第一として、ここから第二、第三、第四という名前が付けられているのは、このような考え方が含まれているからです。

⇒ まだ勉強していませんので、^{じゅうにだいじゅうせい}十二大従星という
 1 2 個の従星 (じゅうせい) があります。
 その場所を人体図に書いておきます。

			北			
		第四 命星	第三 従星			
西	第一 命星	主星	第三 命星	東		
		第一 従星	第二 命星	第二 従星		
			南			

十二大従星も西のほうから――、

第一従星 (だいいちじゅうせい)

第二従星 (だいにじゅうせい)

第三従星 (だいさんじゅうせい)

このように名前が付いています。

⇒ 人体図の出し方に入ります。

人体図のそれぞれの場所には、^{じゅうだいしゅせい}十大主星は五星、そして
^{じゅうにだいいじゅうせい}十二大従星は三星でできます。
星の出し方をまなびます。

⇒ 1953 年（昭和 28）2 月 14 日に生まれた人物の宿命を
例にして、出し方をやっていきます。

そうしますと……。

昭和 28 年 2 月 14 日の陰占の宿命をまず出しておきます。

日	月	年
干	干	干
支	支	支
丙	甲	癸
申	寅	巳

1953（昭 28）年 2 月 14 日

♪ 宿命をはっきりと声に出して読んでください。練習です。

必ず、^{ねんかんし}「年干支」「^{げっかんし}月干支」「^{にっかんし}日干支」の順番で読むということは
まなびました。

生年月日 ⇒ 1953（昭和28）年2月14日

丙 甲 癸
申 寅 巳

宿命は：

年干支「癸巳」きすいのみび

月干支「甲寅」こうぼくのとらぼく

日干支「丙申」へいかのさるきん

♪♪ 声に出して読みましょう。

年干支・月干支・日干支の順で読みますよ。

ここまでは【初年】 15回目【宿命の出し方】の授業で学んでいます。

「ここまでは皆さんが、だしましたよ」という前提で、ここから始めます。

⇒ 干支暦（かんしれき）をつかいます。

☞ 干支歴で、この人の生まれ年^{どし} **昭和28年** を開きます。

昭和26年(1951) 辛卯			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	5	庚寅	壬申
3	6	辛卯	庚子
4	5	壬辰	辛未
5	6	癸巳	辛丑
6	6	甲午	壬申
7	8	乙未	壬寅
8	8	丙申	癸酉
9	8	丁酉	甲辰
10	9	戊戌	甲戌
11	8	己亥	乙巳
12	8	庚子	乙亥
1(昭27)	6	辛丑	丙午

昭和25年(1950) 庚寅			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	戊寅	丁卯
3	6	己卯	乙未
4	5	庚辰	丙寅
5	6	辛巳	丙申
6	6	壬午	丁卯
7	8	癸未	丁酉
8	8	甲申	戊辰
9	8	乙酉	己亥
10	9	丙戌	己巳
11	8	丁亥	庚子
12	8	戊子	庚午
1(昭26)	6	己丑	辛丑

昭和28年(1953) 癸巳			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	甲寅	癸未
3	6	乙卯	辛亥
4	5	丙辰	壬午
5	6	丁巳	壬子
6	6	戊午	癸未
7	7	己未	癸丑
8	8	庚申	甲申
9	8	辛酉	乙卯
10	8	壬戌	乙酉
11	8	癸亥	丙辰
12	7	甲子	丙戌
1(昭29)	6	乙丑	丁巳

昭和27年(1952) 壬辰			
月	節入日	節月干支	1日干支
2 閏	5	壬寅	丁丑
3	6	癸卯	丙午
4	5	甲辰	丁丑
5	5	乙巳	丁未
6	6	丙午	戊寅
7	7	丁未	戊申
8	7	戊申	己卯
9	8	己酉	庚戌
10	8	庚戌	庚辰
11	7	辛亥	辛亥
12	7	壬子	辛巳
1(昭28)	6	癸丑	壬子

それでは……だし方を箇条書きにします。

ご一緒にやってみましょう。

⇒ 人体図をだすとき（1番目）にやるのは……

（1）節入日から、生まれた日までを数える

このことを一番目にやります。

実際にやってみましょう。

この人の節入日が、いつなのかを知るには、暦（こよみ）を見ないとわからないわけです。

暦というのは干支暦かんしれきのことです。

昭和28年の2月の節入日は、干支歴で何日になってい
ますか？ そう——4日になっています。

2月4日が節入日になっています。

これは干支歴を見ないと、何日なのか……正確には出せ
ないわけです。

昭和28年の2月の節入日は 4日 です。

☞ 宿命の余白に 4日 を書き入れるとよいですね。

1953 (昭和 28) 年 2 月 14 日

丙 甲 癸 節入り日 4 (空白に書きました)
申 寅 巳

節入り日は 4 日だと、
空白に書いておくとよいでしょう。

この節入り日から生れた日まで、何日あるかを数えます。
節入日の 2 月 4 日から、生れた日の 2 月 14 日まで、何日
あるのかを数えます。

このときに〔誕生日も、節入り日も〕 1 日と数えてください。
2 月 4 日、2 月 5 日、2 月 6 日……と数えますよ。

2/4 2/5 2/6 2/7 2/8 2/9 2/10 2/11 2/12 2/13 2/14

この場合だと、11 日ということになります。

丙 甲 癸
申 寅 巳 2 月 4 日が節入り日で 11 日目

どこかに書いておくとよいですね。

1番目は ⇒ 1. 節入日から、生れた日までを数える

注意事項は〔節入日も、生れた日も、ともに1日として数える〕

2月4日……5日、6日と数えて行って、この場合だと、11日間ということになります。

☛これを単に——2月14日から、2月4日を差し引けば残りは**10日**だと（14から4を引けば10だと）いうように引き算してしまうと、1日違ってきますよ。

1日違ってくると、星も違ってくる可能性がありますので注意してください。

必ず、節入日も、生れた日も、ともに1日と数えてください。そうしないと星が違ってくる可能性があります。

この場合ですと 11日目 の生まれですよ。

一般に市販されている本で、計算の仕方が間違っている本は多いです。つまり単純に（引き算して）日数を出してしまっているのが多いです。それは昔『泉宗章さん』という女性が書いた算命学の本がベストセラーになったことがあります。そのなかで日数の出し方が1日違っていたのですが、本がすごく売れて、その出し方が広まってしまったのです。現在もその出し方をつかい続けている人が、世の中に割といらっしやいます。ダメですよ。

そして、（2 番目）にやるのは……。

（2）その日数を『二十八元表』にあてはめて、
二十八元のなかにある〔蔵干^{ぞうかん}〕を決定する

節入日から、生まれた日までが何日目になるか、この場合
なら 11 日目です。

その日数を二十八元表（にじゅうはちげんひょう）に当てはめて、
二十八元のなかにある〔蔵干^{ぞうかん}〕を決定します。

〔蔵干〕は二十八元という蔵^{くら}のなかにある「十干^{じっかん}」の意味です。

二十八元表というのは、今回、初めて出てきたものです。
二十八元表は何なのか、あるいはどのように出来たのか
ということについては、もう少し後で説明致します。

いまは取りあえず、二十八元表の見方、つかい方だけをやります。

☞ 『二十八元表』は 28 頁と 29 頁をご参照ください。

二十八元表は、左側に十二支が（子・丑・寅・卯・辰）
と順番に、縦に並んでいます。そして、一番上の項目は、
初元（しょげん） 中元（ちゅうげん） 本元（ほんげん） となっています。

ここでは、2つの二十八元表をご紹介します。

どちらも正しいですよ。

(28 頁) の二十八元表

(29 頁) の二十八元表

2つの表があります

違いは ⇒ ^{ちゅうげん} 中元の欄に、加えて記入された数字です。

(記入した数字の違いの意味を考えて頂くと理解が深まるでしょう)

どちらでも、お好きなほうをご利用ください。

二十八元表

支	初元	中元	本元
子			癸 節明まで
丑	癸 9日	辛 3日	己 節明まで
寅	戊 7日	丙 7日	甲 節明まで
卯			乙 節明まで
辰	乙 9日	癸 3日	戊 節明まで
巳	戊 5日	庚 9日	丙 節明まで
午		己 19日	丁 節明まで
未	丁 9日	乙 3日	己 節明まで
申	戊 10日	壬 3日	庚 節明まで
酉			辛 節明まで
戌	辛 9日	丁 3日	戊 節明まで
亥	甲 12日		壬 節明まで

二十八元表

支	初元	中元	本元
子			癸 節明まで
丑	癸 9日	辛 10-12 3日	己 節明まで
寅	戊 7日	丙 8-14 7日	甲 節明まで
卯			乙 節明まで
辰	乙 9日	癸 10-12 3日	戊 節明まで
巳	戊 5日	庚 6-14 9日	丙 節明まで
午		己 19日	丁 節明まで
未	丁 9日	乙 10-12 3日	己 節明まで
申	戊 10日	壬 11-13 3日	庚 節明まで
酉			辛 節明まで
戌	辛 9日	丁 10-12 3日	戊 節明まで
亥	甲 12日		壬 節明まで

☞ はじめます……。

どこからやってもよいのですが、年支からやっていきます。

宿命をみると、この人の年干支は「癸巳きすいのみび」です
から、年支に巳みび火という十二支があります。

年支に（巳み）があります。わかりやすく（ ）を付けました。

年支に（巳）があるので、二十八元表で（巳）をみてく
ださい。

二十八元表の **支** の行には、上から順番に十二支が書いてあります

(巳) の欄を見ると……、

初元に **戌 5日** と書いてあります。

この意味は、節入日から、5日目までに生れた人は、
〔戌土^{ぼど}〕です。という意味になります。

もう一度いいますと ⇒ 巳の初元のところに、**戌 5**と書いてあります。節入日から（節入り日も含め）5日目までに生れた人は、戌土だということです。

つぎに、巳の中元は **庚 9日** と書いてあります。

節入り日から、最初の5日間に生れた人は〔戌^ぼ〕ですが、つぎの9日間に生れた人は〔庚^{こう}〕です。という意味になります。戌は戌土^{ぼど}のことです。庚は庚金^{こうきん}のことです。

- ❖ 最初の5日間は〔戌土^{ぼど}〕です。
- ❖ つぎの9日間に生れている人は〔庚金^{こうきん}〕です。
- ❖ 最後の本元に **丙 節明まで** と書いてありますが、この意味は **残りは全部 丙へい** になるということです。

ご理解されたとおもいますが、よろしいですね……。

☞ もう一回もうし上げますと、巳の初元に **戊 5日**
 中元に **庚 9日** 本元に **丙 節明まで** と書いてあるのは
 (巳) という十二支をもっている人は……、
節入日を入れて、5日目までの生まれは〔戊〕 です。

つぎの9日間に生れた人は〔庚〕です。

そして、残りは全て〔丙火〕です。という意味なのです。

この人は節入日から11日目だったわけです。

どれに該当するのかといえば、中元の **庚 9日** です。

1953 (昭和28) 年 2月 14日

	丙	甲	癸	
	申	寅	巳	2月4日が節入日です。
初元	-----		戊	2月4日が節入日を含めて 11日目
中元	-----		庚	
本元	-----		丙	

年支 (巳) の二十八元に入っている〔蔵干ぞうかん〕は――

しよげん ぼ ちゅうげん こう ほんげん へい
 初元〔戊〕 中元〔庚〕 本元〔丙〕 です。

最初ですので、いまの部分を図表しておきます。

西暦	干支歴
2 / 4	1
5	2
<hr/>	
6	3
7	4
8	5
9	6
10	7
11	8
12	9
13	10
14	11
15	12
16	13
17	14
<hr/>	
18	15
⋮	⋮

図表に書くと、暦（こよみ）はこのようになっているのです。

この人の誕生日が 2 月 14 日というのは西暦の日付です。

節入日は2月4日です。これも西暦の日付です。

誕生日が2月14日ですから、節入日から、123456と数えていって……11日目ですよ。といただきましたけど、現代は西暦の日付で生年月日を表しています。それゆえに、こういう作業をしなくてはならないわけです。

昔の中国は西暦の^{せいれき}暦^{こよみ}をつかっていません。そうしますと、2月14日が誕生日の人は、もともとは 11日 に生まれたのです。11日生まれだったわけです。

おわかりになりますよね。

節入日というのは、その月が始まる日です。つまり、節入日というのは、昔の干支歴でいえば、その月の1日（ついたち）になるのです。その月が始まる日です。

1953（昭和28）年2月14日の場合だと……。

丙 甲 癸

申 寅 巳

2月4日は寅月の1日になります。

2月5日は寅月の2日になります。

2月14日というのは寅月の11日になります。

二十八元表の（巳）のところに、**戊土5日** **庚9日** そして、
残りは全部 丙 と書いてあります。これを巳だけ書きますと……

西暦	干支歴	
2 / 4	1	巳
<hr/>		
5	2	↑
6	3	
7	4	戊 5日 初元
8	5	↓
<hr/>		
9	6	↑
10	7	
11	8	
12	9	
13	10	庚 9日 中元
14	11	↓
15	12	
16	13	
17	14	↓
<hr/>		
18	15	↑
19	16	丙 本元
⋮	⋮	⋮

☞ 初めは慣れないので面倒に感じますが、慣れれば簡単です。

巳の初元に 戊 5 と書いてあるのは、干支歴をつかっていた昔の時代は、その月の 5日 までが〔戊土〕でしたから、そのまま当て嵌めればよかったです。つまり、節入日から何日目だと、数える必要はなかったわけです。

誕生日の日付そのものが、2月の14日生まれの人なら、〔2月の11日生まれ〕というふうになっていたのです。

昔は 戊 5 といえば〔5日までに生れた人は〕初元 だと、すぐに判ったので、数える必要はなかったのです。

現在は、西暦で生年月日をつかうようになりましたので、節入日から何日目なのか……を数え直さないといけないわけです。

つぎの9日間は ⇒ 6から14 が中元に書いてある数字です

6 7 8 9 10 11 12 13 14 6から14の9日間に生れた人は 中元 の〔庚金〕になります。年支(巳)は〔庚金〕です。

そして、残り全部は〔丙火〕ということになります。

このようにして、おなじやり方を、月支の(寅木)にも、日支の(申金)にもするわけです。 ➡

☞ 月支（寅^{とら}）やっています。

（寅）の五行は木性なので（寅木 とらぼく）ともいいます。

二十八元表で（寅）をみてください。

（寅）寅をみると、初元は **戊 7** となっています。

中元は **丙 7** です。本元は **甲 節明まで** となります。

この人は、**2月4日が節入日を含めて11日目** つまり、節入日から11日目の生まれですから、中元 **丙** の範囲内に生れています。

（寅木）は初元 **戊土 7** で、中元 **丙火 7** と書いてありますから、中元 **丙火** の範囲内に生れている人は、**丙** になります。という意味なのです。

1953（昭和28）年2月14日

丙 甲 癸

申 寅 巳

初元 戊 戊

中元 **丙** **庚**

本元 甲 丙

2月4日が節入日です。

2月4日が節入日を含めて **11日目**



☞ 二十八元表でおなじく（申）をみてください。

（申）の五行は木性なので（申金 さるきん）ともいいます。

申金の初元は **戊 10日** で、中元は **壬 3日** です。

節入日から 11 日目の人なので、ほとんど中元になってしまいうわけですが、これも、中元の 3 日間の範囲に生れていますから、（申）も中元は **壬水** です。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

	丙	甲	癸	
	申	寅	巳	2月4日が節入日です。
初元	戊	戊	戊	2月4日が節入日を含めて 11日目
中元	壬	丙	庚	
本元	庚	甲	丙	二十八元のなかはすべて蔵干

年支（巳） 月支（寅） 日支（申） 3つの十二支を二十八元表で見ると、初元／中元／本元という蔵が存在し、そのなかには十干が入っています。それらの干を蔵干といいます。

（巳）（寅）（申） これら十二支が、初元／中元／本元のなかで、どの範囲に存在するのかわ、二十八元表をつかって、まずは決めるのです。ここまで決まれば、あとは割合に簡単です。

1953 (昭和 28) 年 2 月 14 日

日干 (自分)	丙	月干 甲	年干 癸	日支 申	月支 寅	年支 巳
初元	戊	戊	戊			
中元	壬	丙	庚			
本元	庚	甲	丙			

星のだし方：

「日干^{にっかん}」は自分自身です。

「日干 自分」から見て、「年干^{ねんかん}=癸」「月干^{げっかん}=甲」……

そして、二十八元に基づいて出した蔵干を、それぞれの星になおせばよいのです。

つまり「年干の癸水」「月干の甲木」（年支の巳）（月支の寅）
（日支の申）の 5 つをそれぞれ星になおします。

☞ そうしますと、自分自身は日干の「丙^{へい}」です。

「丙」の人が、年干に「癸」をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、月干に「甲」をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、巳の蔵干に〔庚〕をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、寅の蔵干に〔丙〕をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、申の蔵干に〔壬〕をもっていると、なんの星になるのか？

ということになります。

年干は「癸^{きすい}水」です

月干は「甲^{こうぼく}木」です → 2つの十大主星があります。

そして、年支（巳） 月支（寅） 日支（申）の二十八元から
でてきた3つの蔵干を星になおします。

年支（巳）の二十八元からでたのは

こうきん
〔庚金〕

です。

月支（寅）の二十八元からでたのは

へいか
〔丙火〕

です。

日支（申）の二十八元からでたのは

じんすい
〔壬水〕

です。

↑
二十八元からでた3つの十大主星

このように、合計で5つの十大主星が出てきます。

⇒ (三番目) にやるのは……。

(3) 日干から、ほかの「5つの干」を見て星になおす

☞ 実際に星になおしていきます。

最初ですから、わかりやすいように**番号**をつけます。

年干にある場所を①とします。

月干にある場所を②とします。

年支のなかにある〔庚金〕は③です。

月支のなかにある〔丙火〕は④です。

日支のなかの〔壬水〕は⑤です。

つぎのページをみてください ➡

1953 (昭和 28) 年 2 月 14 日

日干(自分) 丙 ② 甲 ① 癸
 申 寅 巳

2月4日が節入り日です。

初元 戊 戊 戊
 中元 ⑤ ④ ③
 本元 庚 甲 丙

2月4日が節入り日を含めて 11 日目

① ② ③ ④ ⑤ と番号をつけました。

これらの番号を、人体図になおしたときに、

	第四命星	
	①	
第一命星 ⑤	④ 主星	③ 第三命星
	②	
	第二命星	

① ② ③ ④ ⑤ の場所に〔星〕となって出ます。

①と書いた年干「癸」は星になおして、人体図①の場所にでます。

②と書いた月干「甲」は、人体図②の場所にでます。

あと、それぞれ ③ ④ ⑤ は、人体図③ ④ ⑤の場所に十大主星になって出てきます。

🔍 43 頁の『じゅうだいしゅせいひょう十大主星表』を参照ください。

🔍 44 頁の『じゅうにだいにじゅうせいひょう十二大従星表』を参照ください。

『十大主星表』

- ① 日干から年干を見て 第四命星
- ② 日干から月干を見て 第二命星
- ③ 日干から年支の蔵干を見て 第三命星
- ④ 日干から月支の蔵干を見て 主星
- ⑤ 日干から日支の蔵干を見て 第一命星

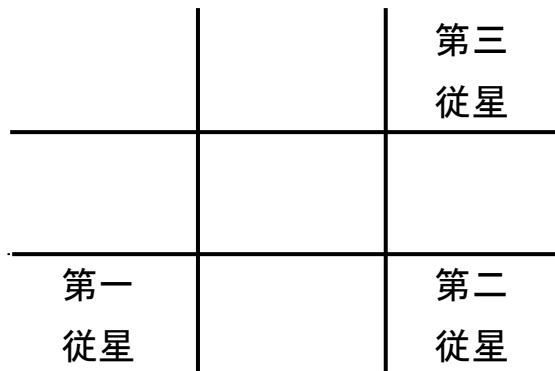
	第四 命星	
第一 命星	主 星	第三 命星
	第二 命星	

十大主星表

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	日干 星
癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	貫索星
壬	癸	庚	辛	戊	己	丙	丁	甲	乙	石門星
乙	甲	癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	鳳閣星
甲	乙	壬	癸	庚	辛	戊	己	丙	丁	調舒星
丁	丙	乙	甲	癸	壬	辛	庚	己	戊	禄存星
丙	丁	甲	乙	壬	癸	庚	辛	戊	己	司禄星
己	戊	丁	丙	乙	甲	癸	壬	辛	庚	車騎星
戊	己	丙	丁	甲	乙	壬	癸	庚	辛	牽牛星
辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	癸	壬	龍高星
庚	辛	戊	己	丙	丁	甲	乙	壬	癸	玉堂星

『十二大従星表』

- ① 日干から年支を見て 第三従星
- ② 日干から月支を見て 第二従星
- ③ 日干から日支を見て 第一従星



十二大従星表

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	日干 星
巳	午	寅	卯	亥	子	亥	子	申	酉	天報星
辰	未	丑	辰	戌	丑	戌	丑	未	戌	天印星
卯	申	子	巳	酉	寅	酉	寅	午	亥	天貴星
寅	酉	亥	午	申	卯	申	卯	巳	子	天恍星
丑	戌	戌	未	未	辰	未	辰	辰	丑	天南星
子	亥	酉	申	午	巳	午	巳	卯	寅	天禄星
亥	子	申	酉	巳	午	巳	午	寅	卯	天将星
戌	丑	未	戌	辰	未	辰	未	丑	辰	天堂星
酉	寅	午	亥	卯	申	卯	申	子	巳	天胡星
申	卯	巳	子	寅	酉	寅	酉	亥	午	天極星
未	辰	辰	丑	丑	戌	丑	戌	戌	未	天庫星
午	巳	卯	寅	子	亥	子	亥	酉	申	天馳星

☞ 人体図にでてくる十大主星が、何の星になるのかは、「日干」に対して、相生なのか、相剋なのか、比和なのか、その関係によって決まります。

🔍 それは 43 頁の『十大主星表』を見ながらやるほうがよいでしょう。

☞ 十大主星表をつかいます。

日干 (自分)	丙	② 甲	① 癸
	申	寅	巳
初元	戊	戊	戊
中元	⑤ 壬	④ 丙	③ 庚
本元	庚	甲	丙

この人の日干は「丙」です。自分自身が「丙火」です。

『十大主星表』をみます。丙の人が、癸をもっていると、何の星になるかを見ると〔牽牛星〕になっています。

☞ 日干「丙」から「癸」を見ると〔牽牛星〕です。 ➡

	第四命星 ①	
第一命星 ⑤	④ 主星	③ 第三命星
	② 第二命星	

☞ 日干「丙」から、年干「癸」を見ると〔牽牛星〕になります。〔牽牛星〕が人体図①の場所にでてきます。

	牽牛星 ①	
⑤	④	③
	②	

以下おなじように、

日干「丙」の人は、今度は月干②に「甲」があります。

十大主星表で、「丙」から「甲」を見ると、龍高星になります。

	牽牛星 ①	
⑤	④	③
	龍高星 ②	

おわかりになりましたでしょうか……。

つぎに「丙」の人が、年支の二十八元に〔庚〕があると『十大主星表』で何の星になっていますか——？

丙の人が、庚をもっていると〔禄存星〕になります。

	牽牛星 ①	
⑤	④	禄存星 ③
	龍高星 ②	

禄存星が③の場所に出てきます。

そして④はどうでしょう……。

「丙」の人が、月支（寅）の二十八元に〔丙〕があると何の星になっていますか？

貫索星ですね。〔貫索星〕が④にきます。

	牽牛星 ①	
⑤	貫索星 ④	禄存星 ③
	龍高星 ②	

つまり、主星（真ん中）になります。

最後は、「丙」の日支⑤（申）の二十八元に〔壬〕がありました。

日干「丙」の人が〔壬〕をもっていると『十大主星表』で〔車騎星〕になります。

	牽牛星 ①	
車騎星 ⑤	貫索星 ④	禄存星 ③
	龍高星 ②	

この人の⑤は〔車騎星〕になります。

このようにして、人体図に十大主星は出てきます。

☞ ここまでを、最初から復習します ➡

☞ ここまです、最初から復習します

1953 (昭和 28) 年 2 月 14 日

丙 甲 癸

申 寅 巳

2月4日が節入日です。

初元 戊 戌 戌

2月4日が節入日を含めて 11 日目

中元 (壬) (丙) (庚)

本元 庚 甲 丙

まずは宿命を出します。

宿命をだして、一番最はじめにやることは、節入日から生れた日まで、何日あるのか数えます。

かんしれき
干支歴を見ると、2月4日が節入日とでていました。

この人が生れた日は、2月14日なので、11日目ということになります。

この11日目というのを、二十八元表に当てはめます。

この人は、年支に (巳) をもっていますので、二十八元表を見ると、(巳) の初元 [戌]・中元 [庚]・本元 [丙] と入っていて、戌 5 日 つまり5日と書いてあります。

〔戊〕は5日というのは、節入日から、最初の5日間に生れている人は〔戊土〕ですよ。という意味です。

この人は11日目です。初元の^ほ戊は当て^は嵌まりません。

中元の〔庚〕は 庚 6~14 9 日 と書いてあります。

11 日目は中元〔庚〕の範囲ですから、中元の〔庚〕になります。

おなじく、月支（寅）を見ると、丙 8~14 7 日 と書いてあります。この人は11日目の生まれですから、中元〔丙〕の7日間に入ります。

最後の日支（申）も、中元〔壬〕の3日間に入ります。

このようにして、二十八元が全部決まりましたら、後は、『十大主星表』をつかって……、

「日干」から、年干の癸水を見て十大主星をだします。

「日干」から、月干の甲木を見て十大主星をだします。

「日干」から（巳）の二十八元からでた庚金を見て星をだします。

「日干」から（寅）の二十八元からでた丙火を見て星をだします。

「日干」から（申）の二十八元からでた壬水を見て星をだします。

番号がふってあるそれぞれの場所に、十大主星の名称を書いていけばよいわけです。

最初は、やや手間取るかも知れませんが、慣れてくると速くさせるようになります。

ご自分のとか、ご家族とか、お知り合いでも、何人か出してみると良いでしょう。

一度、星を出しておけば、いつでも、それは占いをするときにつかえます。

⇒ 十二大従星のだし方もやっておきます。

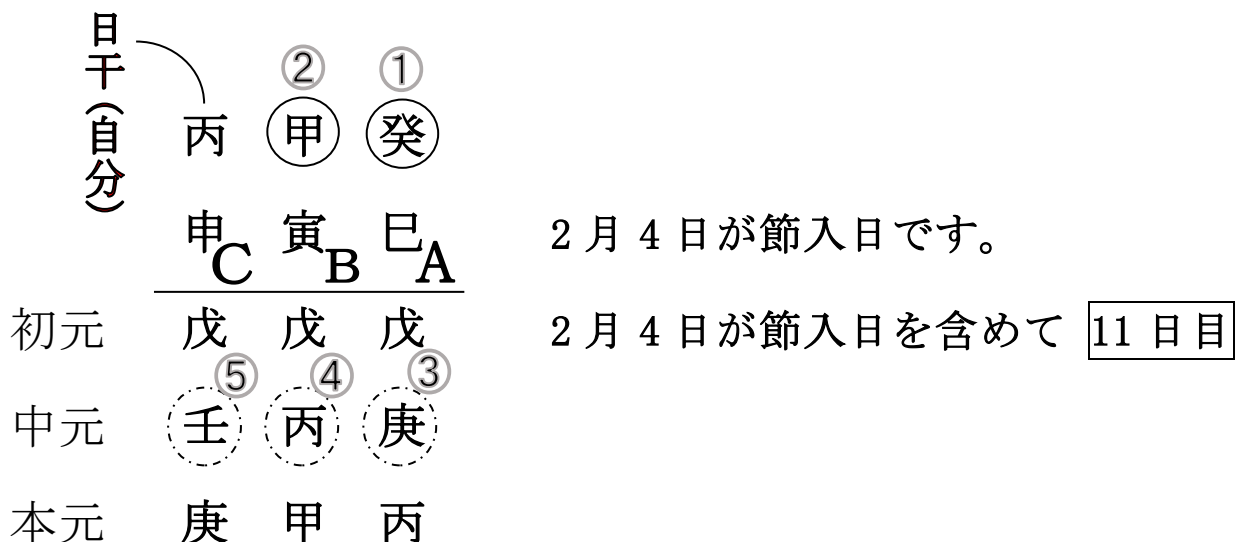
十二大従星はまだ勉強していませんけど、従星のだし方だけやりましょう。

十二大従星の場合は、節入日 とか、まったく関係ありません。すぐにだせます。

🔍 44 頁の『十二大従星表』をつかってだします。

十二大従星をだすときは「日干」から十二支を見ます。

1953 (昭和 28) 年 2 月 14 日



今度は (年支の巳は A) (月支の寅は B) (日支の申は C) と、順に A B C の記号をつけました。そして人体図 ➡

人体図・十二大従星の場所にも A B C とつけました。

			北			
			第四 命星			
			牽牛星 ①	第三 従星	A	
西	第一 命星	車騎星 ⑤	貫索星 ④	禄存星 ③	第三 命星	東
			龍高星 ②	第二 従星	B	
			第二 命星			
			南			

そうしますと、A B C の場所に〈星〉となって出ます。

🔍 『十二大従星表』をみてください。

👉 日干「丙」から（巳）をみると、〈天禄星 てんろくせい〉と記載されています。

（巳）は年支であり、人体図の場所は A ですから、そこに〈天禄星〉と書きます。A の場所は〈天禄星〉です。

			牽牛星 ①	天禄星 A
			貫索星 ④	禄存星 ③
			龍高星 ②	B
C				

☞ 日干「丙」から（寅）をみると〈天貴星 天きせい〉と記載されています。

（寅）は月支であり、人体図の場所は B ですから、そこに〈天貴星〉と書きます。B の場所は〈天貴星〉です。

	牽牛星 ①	天禄星 A
車騎星 ⑤	貫索星 ④	禄存星 ③
C	龍高星 ②	天貴星 B

☞ 最後——日干「丙」から（申）をみると〈天胡星〉と記載されています。

正式名称は天胡星（てんこせい）で、通常は（てんゆめせい）といいます。

（申）は日支であり、人体図の場所は C ですから、そこに〈天胡星〉と書きます。C の場所は〈天胡星〉です。

	牽牛星 ①	天禄星 A
車騎星 ⑤	貫索星 ④	禄存星 ③
天胡星 C	龍高星 ②	天貴星 B

✎ これで人体図は完成しました。

人体図のだし方は以上です。

最初は戸惑うこともあるかとおもいます。

何人か練習してだしてみると、割とスラスラだせるよう
になります。

ぜひ、練習してください。

【初年】 3 4 回目【人体図のだし方】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】 3 5 回目【人体図純濁法】